

地球にやさしい環境づくりへの取り組みを進めてまいります。



また、風力発電事業を推進するための林道整備のほか、住宅用太陽光発電設備などへの補助による地球にやさしい環境づくりへの取り組みを進めてまいります。

また、整備を進めてまいりました汚泥再生処理センターが、4月1日に稼働いたします。これに伴い、市町村合併時の課題でありました入来・祁答院地域における浄化槽汚泥およびし尿

また、整備を進めてまいりました汚泥再生処理センターが、4月1日に稼働いたします。これに伴い、市町村合併時の課題でありました入来・祁答院地域における浄化槽汚泥およびし尿

いよいよ今年も、私にとりましても、議員の皆様にとりましても、任期4年の集大成、最後の年であります。市長就任時にマニフェストに掲げた施策の全ての達成を目指し、市民の皆様

③環境・エネルギー対策  
新エネルギー導入に向けたビジョンおよび行動計画を策定し、地域一体となった新エネルギー導入に向けた取り組みを進め、最終的には、産業や雇用の創出を目指します。

さらに、消防庁舎建設事業の着手、防災行政無線デジタル化整備事業を進め、消防・防災対策の充実した安全なまちづくりを推進してまいります。

⑥安定した産業  
生産者および加工業者との連携により特産品開発などを行う商工団体を支援する農商工連携支援事業を新たに創設するとともに、生産・加工・販売の一体化による付加価値を創出する6次産業化を推進し、地域資源の活用と雇用・所得の拡大を図ってまいります。

⑧行政組織の見直し  
当面平成25年4月に、本庁・2支所・6市民サービスセンターに再編することを目標とした組織機構再編方針の策定に向けて、今月上旬から支所管内の地区コミュニティ協議会単位で住民説明会を実施しております。

⑨小・中学校教育  
市内全中学校区で実施しております小中一貫教育の成果を踏まえ、「ふるさと教育」をさらに充実させるとともに、平成22年12月に策定いたしました「薩摩川内市立小・中学校の再編等に関する基本方針」に基づき、保護者や地域住民のご理解とご協力を賜りながら学校再編を進め、よりよい学校教育環境づくりに努めてまいります。

※2 アクアスロン…水泳とマラソンの2種目を行い、その合計タイムで順位を決める競技

平成24年第1回市議会定例会

施政方針の概要



薩摩川内市長 岩切秀雄

昨年発生しました東日本大震災から、間もなく1年を迎えます。私は先月、本市消防団の幹部と共に、被災地を訪問いたしました。津波によって建物全てが流されてしまった地域、山積みになった車両やがれきなど、いまだ残る震災の傷跡を目の当たりにし、本心に心が痛みました。

2月23日(木)、平成24年第1回市議会定例会で、岩切秀雄市長が述べた市政に関する考え方や方針の概要を紹介します。なお、全文は市ホームページで紹介しています。

本市をめぐる最近の動き

■立地協定、フェイスブックを活用した特産品販売

1月23日から昨日までの間に、3社の企業と新設・増設・移転に係る立地協定を締結し、新たに39人の雇用が見込まれております。今後も、本市の活力を生み出す新たな企業の誘致に力を注いでまいります。

また、今月3日には、佐賀県武雄市との連携により、フェイスブックを活用した特産品販売を行うことについて同意いたしました。今後、早期に本市のフェイスブックページを開設し、さらなる特産品などの戦略的ピールに努めてまいります。

\*2月3日、フェイスブックについて、武雄市と同意

さらに、本市観光大使の塩田浩一日刊スポーツ新聞社営業センター長のお取り計らいにより、甕島をテーマにした薩摩川内市ふるさと応援ソング「島立ちの春」が、このほど完成し、全国発売の運びとなりました。来月13日には、里港において、歌の完成を記念した歌碑の除幕式が挙行される予定であります。

\*3月13日、歌碑除幕式挙行  
■スポーツ合宿  
読売巨人軍に移籍されました

杉内俊哉選手など8人のプロ野球選手の自主トレが、今年も本市で行われ、昨年を超える多くの野球ファンの眼差しが選手たちに向けられました。

また、今月に入り、9年連続となる千葉ロッテマリーンズのファーム春季キャンプも実施され、本日は新しいスコアボードのこけら落としも兼ねてオープン戦が予定されております。



千葉ロッテマリーンズ歓迎セレモニー

\*2月23日、新スコアボードこけら落とし・オープン戦実施

川内原子力発電所・防災対策  
川内原子力発電所につきましては、現在、原子力安全・保安院において、安全評価、いわゆるストレステストの審査が行われております。この審査結果および4大臣の判断、国による市民の皆様への説明を経た後、議員の皆様方のご意見をお聴きしながら、安全確保を大前提に、再稼働について判断したいと考えております。

原子力防災計画につきまして、昨年末、県が原子力災害対応

策暫定計画を策定、公表したところであり、本市におきましても20キロメートル圏内の広域避難計画など、市の暫定計画の3月末策定に向け、作業を進めているところであります。

また、東日本大震災の津波災害を教訓に、市民の皆様の避難行動につなげていただくため、海抜のほか、海岸や原子力発電所からの距離などを表示した看板を、今月末までに公共施設、指定避難所および電柱など324箇所に設置いたします。



津波看板

\*2月29日、津波看板設置完了  
さらに、現在作成中であります「津波ハザードマップ」と「防災マップ」も、梅雨時期までには各世帯に配布し、市民の皆様の防災意識を高めてまいりたいと考えております。

本年度の施策概要

①ゴールド集落支援

ゴールド集落活性化条例に基づき、定住促進や集落活性化、鳥獣被害防止などの支援を継続

※1 フェイスブック…インターネット上で、人と人とのコミュニケーションの場を提供するサービス